

指江 B 遺跡出土の埴輪片をめぐって

松尾 実 久田正弘

はじめに

石川県河北郡宇ノ気町所在の指江 B 遺跡から埴輪片が二十数点出土しており、その解釈をめぐって混乱が生じた。当報告はこれらの埴輪片を整理・検討し、その評価を行う事を目的とする。

当初、埴輪片についての解釈は当センター文化財情報第 4 号での指江 B 遺跡の紹介より、「本遺跡では 6 世紀の埴輪（南加賀産）が出土しているように、古墳後期の当地域周辺の豪族が深く関与する拠点集落と推定され、内部で祭祀が執り行われている。」とされていた。（註 1）これは古墳時代後期～古代に機能していた河道から勾玉・白玉・斎串・鳥形・船形木製品といった祭祀関連遺物と埴輪片が共に出土していることから、河道に投げ捨てた祭祀と想定したためである。

しかし、調査報告書（註 2）では祭祀説を否定し、周辺に古墳の存在を示唆しつつ、混入したものと再考している。ただ、その根拠や理由は言及されていない。当報告では、調査報告書作成における埴輪片の整理を通じてその解釈に至った説明を行い、若干の私見を述べたい。（松尾）

地理的環境

宇ノ気町と津幡町の境に位置する低丘陵に位置し、東側は急斜面であり、西側の緩斜面に遺跡は立地する（図 2）。この丘陵は能瀬川によって開析された小平野の右岸に位置し、北側から繋がる低丘陵の突端でもある。能瀬川左岸には丘陵上に谷内石山遺跡と谷内石山古墳群（円墳 3 基）が、丘陵裾には古墳時代後期の谷内石山古墳が存在する。遺跡の西側には河北潟が存在し、その間には古代の北陸道能登街道が通っていたはずであり、南 1.7km には深見駅である加茂遺跡が存在する。（久田）

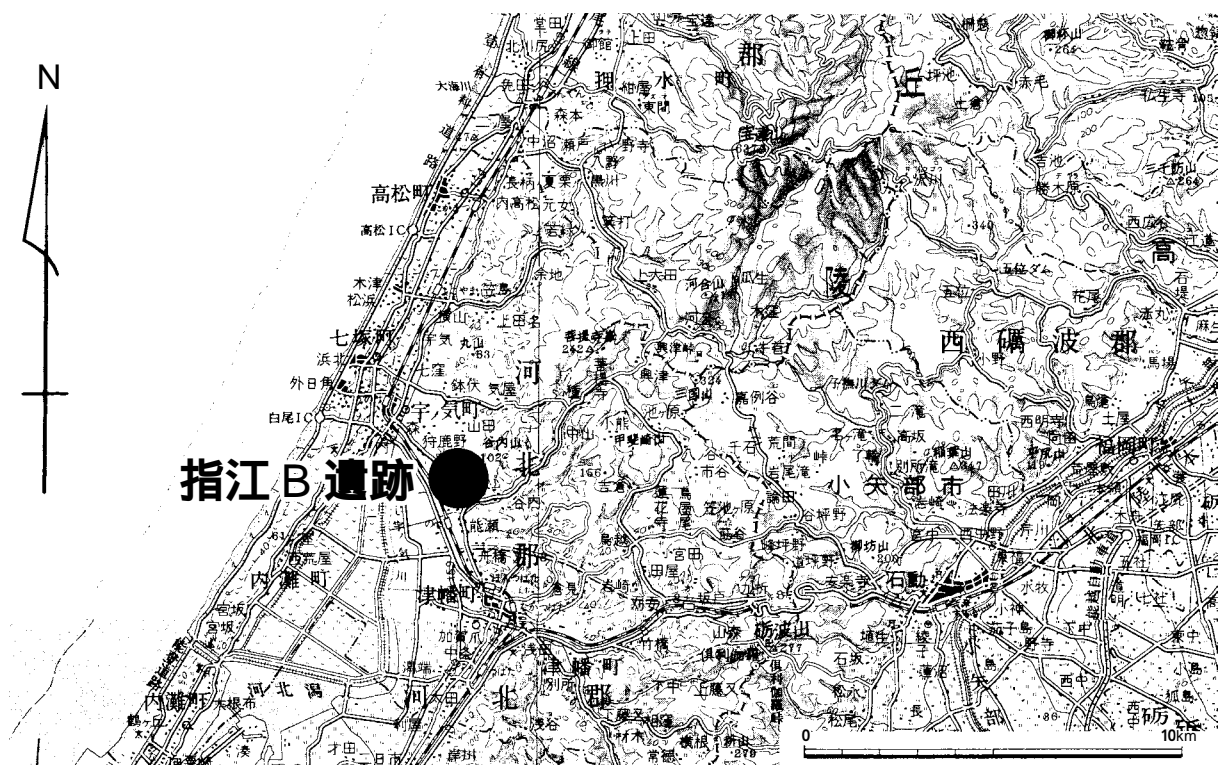


図 1 指江 B 遺跡位置図

遺跡の概要

指江 B 遺跡は、縄文後期中葉～中世までの複合遺跡であり、古墳後期 TK47式併行期～古代 期が中心であり、中世の遺構も多い。調査区は大きく3地区に分かれ、丘陵斜面北側の A・E・G 区、春日神社を挟んで南側の F・H・I 区、丘陵裾の B～D 区である。北側では、古墳後期に G 区に高殿と思われる 5 × 4 間の掘立柱建物があり、また韓式系土器が多く出土した。E・A 区に続く河道があり、土器・木器の他に、白玉などの玉類も多量に出土した。E 区では河道の北側に鞍部 (SX01) があり、南側には 5 × 4 間の掘立柱建物が存在する。古代では、E 区北側には掘立柱建物が多く確認され、多足机や「大宮」「大国別社」「小神」などの文字資料があり、神社の存在が想定される。南側では、古墳後期の遺構・遺物は少なく、古代・中世の遺構が殆どであり、F 区を中心に須恵質埴輪片が多く出土した。H 区には古代の 2 × 3 間で 4 面庇付き掘立柱建物が存在し、I 区では「寺」の文字資料から、周辺に寺院の存在が想定される。河道からは斎串・玉類・漆器鉢などが出土した。D・B 区は丘陵裾に位置し、中・近世の溝から埴輪が出土した。また南側のやや高い地点で3点を表採した。

須恵質埴輪は、全部で26点が出土し、北側では E 区 1 点、南側では 12 点、丘陵裾では 13 点が出土した。圧倒的に丘陵南側とその南西裾に集中するが、古墳後期の遺構・遺物は少なく、当時の河道も検出していない。E 区の 1 点は、Eb 1 区の古墳後期の鞍部出土であるが、Ed 1 区と存在しない注記の可能性が高く、やや問題がある資料の可能性はある。(久田)

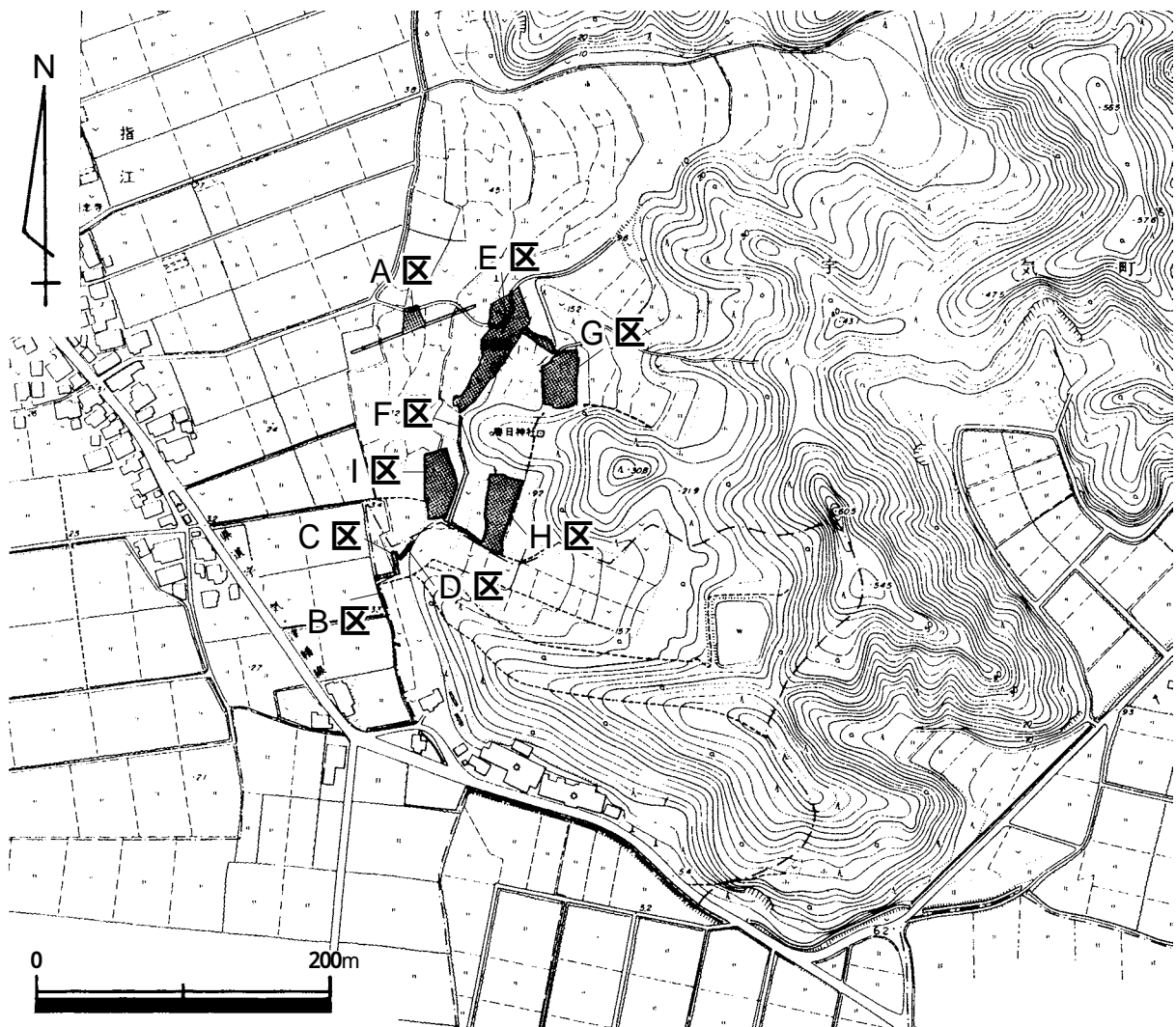


図2 指江 B 遺跡調査区位置図 (報告書より転載)

埴輪片について

当報告での埴輪片は総数26点で、いずれも小片である。種類は円筒形埴輪、朝顔形埴輪がある。なお、朝顔形埴輪は胴部の製作技法が円筒形埴輪の製作技法に類似すると考えたため、一括して円筒埴輪として取り扱い、整理を行った。個々については、実測図・観察表を参照されたい。

胎土は、すべてが2mm以下の白色砂粒をまばらに含む。南加賀地域の所産（註3）と考えられ、生産地が推定できる。

調整は、内面はナデ調整が多い。横ハケを施しているものが2点を数えるが、両調整とも円筒埴輪の内面に広く見られることから、別段問題ない。ただ、特筆するものとして、同心円文の当て具痕跡をもつものがある。これは、東海地域に広く分布している倒立技法（註4）の内面に残る痕跡と同様のものとする。一方、外面は縦方向のハケ調整が多い。1cmあたりのハケ単位は4本/cm～8本/cmであるが、多くは6本/cm前後である。

色調は、大別して2種類ある。灰色とにぶい橙色である。また、焼成はすべて黒斑がなく硬質である。いわゆる須恵質埴輪と呼称されているものである。当報告では窖窯焼成のなかでも窯内の燃焼温度の高低さでもって還元炎焼成・酸化炎焼成と分けて呼称しても大過ないと考えた。実測図では、断面黒ぬりを前者、白ぬきを後者として表している。

その他の特徴として、突帯と透かし孔がある。双方とも資料数は少ないが、突帯はほとんど断面が低い台形を呈している点や端面が凹状である点が共通している。透かし孔は円形と想定できるものが多い。また、透かし孔の穿孔方向が反時計回りのものと時計回りのものがある。（松尾）

埴輪片の時期

すべてが窖窯焼成の埴輪片である。外面の調整はほとんど縦方向のハケである事、突帯は断面が低い台形である事から、指江B遺跡出土の埴輪片の時期は、川西編年（註5）のⅤ期と推定でき、古墳時代後期の所産と考える。（松尾）

小結

埴輪片を整理した結果、古墳時代後期に南加賀地域にある生産地によって製作・焼成され、当該地域周辺にあった古墳の造営に伴って生産された円筒埴輪の一部であったと判断できる。

当該地域周辺は地理的環境や層位的解釈を考慮すると、開拓が古代以降に連続と継続して行われたと想定でき、円筒埴輪を樹立していた古墳が後の時代の開拓によって破壊され、埴輪が小片となって古代の河道・土坑・落ち込みなどに混じり込んだと考える。埴輪片が総数26点という少量については古代以降の度重なる開拓や自然環境の変化等で、拡散されたためと理解した。古代以降の層位から出土していることがその傍証といえよう。

一方、当初の解釈を考えると、古墳時代後期頃に埴輪を直接的、間接的に破碎してその小片を河に捨てる祭祀行為があったならば、河道からの出土数が少ないという問題が生じる。調査報告によると、古墳時代後期における当該遺跡を「当地域周辺の豪族が深く関与する拠点集落（註6）」と評価している。埴輪片を用いた祭祀が執り行われていたと想定されるならば、より多く出土していてもおかしくない。また、埴輪本来の役割（註7）を考えると祭祀行為を行ったという解釈に齟齬が生じる。

さらに、問題点がある。第一に、埴輪の破片という事と数量の些少さという資料の限界性である。第二に、表面採集・混入といった出土地による資料価値の低さである。これらについては、埴輪が出土する場所を考えることによって説明ができると考えた。古墳・窯跡・集積場などが想起できるが、

遺跡周辺の立地や出土地の状況等で、もっとも妥当性のある古墳の存在を考えるに至った。

したがって、指江 B 遺跡出土の埴輪片は直接的・間接的にしろ、祭祀行為に伴う遺物であった蓋然性がきわめて低いと判断せざるを得ない。むしろ、当地域周辺に埴輪を伴った古墳の存在があったと推定する方が妥当と考える。

特筆するものとしては、内面に同心円文の当て具痕跡がある埴輪片である。当地域においても倒立技法で行った埴輪の存在があったことが指摘できる。これにより、古墳時代後期における埴輪製作工人の動向や政治状況の一端を知ることができると思う。

指江 B 遺跡出土の埴輪片は、資料的な制約と古墳という具体的な形がないものの、古墳時代後期におけるその価値は高い。また要衝の地であったことが窺え、周辺地域を支配していた首長の存在が想起できる。本例は当地域における政治的・社会的動向を知る上で貴重な資料と強調したい。

以上、指江 B 遺跡出土の埴輪を整理・検討し、報告を行った。次に、そこから派生して、石川県下での埴輪が出土している遺跡を集成し、それについての私見と今後の課題を述べたい。（松尾）

石川県下での埴輪出土地について

前述のとおり、指江 B 遺跡出土の埴輪片から当地域周辺に埴輪を伴った古墳の存在があったと仮定して、埴輪が出土した遺跡からどのようなことが把握できるのか述べてみたい。（註 8）

管見ゆえに不備な点に至るところにあるが、埴輪が出土した遺跡を集成した。石川県下における埴輪が出土した遺跡は47箇所を数える。（註 9）

古墳時代を通してみると、以下の傾向が捉えられる。前期後半頃に埴輪を伴う古墳が少数存在し始める。そして、中期後半になると急激に増加し、後期前半につづく。後期後半には古墳がまったく見られない。前期では有力首長のなかで畿内からの埴輪祭祀を導入した時期と考えられる。中期末から後期前半にかけては、埴輪祭祀が展開していく。南加賀地域において埴輪が生産され、その生産を管理・掌握していた首長の下、小地域の各首長に敷衍したと考える。これには生産地である南加賀古窯跡群（石川県南部に所在する小松丘陵窯跡群）にある二ツ梨殿様池窯跡群の存在が重要となる。後期前半の矢田野エジリ古墳より出土した埴輪が南加賀古窯跡群にある二ツ梨殿様窯跡群のものと判断された報告（註10）がある。また当地域に存在した古墳の埴輪もそこから供給された可能性が高いことから、当報告における埴輪も二ツ梨殿様池窯跡群から生産された可能性があり、広範囲な需要・供給関係があったと想定できる。（註11）なお、集成した埴輪片の中にも須恵質埴輪がいくつかある。今後、再検討を行うことにより、それらの関係が浮き彫りになるであろう。さらに、埴輪祭祀を受け入れた地域の各首長の増加と生産地との関係を探ることにより、当地域における政治的・社会的構造の一端が導出できる可能性がある。後期の後半になると、埴輪生産が停止してしまう。それまで行われた埴輪祭祀が途絶える。埴輪生産も停止せざるをえなくなる。各地域に造営される群集墳の出現といった従来の社会構造の再編成が生じたと思う。

一方、平面的にみると、遺跡のほとんどが比較的開けた立地の良い場所に分布しているのが見て取れる。（図 3）前述した展開期には、このような状況であったと把握できる。このことより、小地域での拠点的な箇所に埴輪祭祀が広まったことが指摘でき、首長間のネットワークが急速に構築されていたと想起する。（松尾）

結語

石川県下での埴輪出土地の私見を述べた。以下にまとめる。



図3 埴輪出土地分布図

- 1、埴輪を生産した窯の出現を定点として、古墳時代中期末から後期にかけて一つの画期があり、南加賀地域において埴輪生産が開始したことは、一元的に埴輪生産を管理・掌握していた首長と、広範囲による各小地域の首長との間に需要・供給関係があった可能性を指摘した。
- 2、埴輪が出土している地点は各地域の主要な箇所であり、そこから各首長間のネットワークが急速に構築された可能性のあることを指摘した。

課題としては、埴輪を伴わない古墳との相対関係、在地の南加賀型木芯粘土室（註12）を主体部にもつ古墳との関係、さらに倒立技法の持つ埴輪より専門工人の動向などといった各側面からのアプローチと比較検討の必要性である。将来、古墳時代の社会・政治的動向を具体的に知る上で不可欠となろう。なお、より基礎資料の厳密性を追求することは当然行っていく。今後の再検討によって、石川県下における古墳時代の社会的・政治的動態にアプローチできると考える。（松尾）

おわりに

私の不勉強さゆえに本報告の内容に不備な点が多く生じたことは否めない結果となった。今後、先学の方々からのご叱正・ご指導・御教授を頂き、真摯な態度で改善、発展していきたいと考えています。

最後に本報告を行うにあたり、久田正弘氏には本報告の機会を与えて頂いた。また、以下の方々にもご指導・ご教示頂いた。記して感謝の意を表します。（松尾）

岩瀬由美氏 大西 顕氏 柿田祐司氏 川畑 誠氏 藤藪勝則氏

< 註 >

- (註1) 石川県埋蔵文化財情報第4号「指江遺跡・指江B遺跡」2000 石川県埋蔵文化財センター
- (註2) 「指江遺跡・指江B遺跡」2002 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- (註3) 当センター久田正弘氏・柿田祐司氏・岩瀬由美氏より実見して頂き、またご教示頂いた。
- (註4) 倒立技法とは、「粘土紐を積み上げて、ある段階で、倒立させて上下を逆転し、倒立前に底部であったところに更に粘土を積み上げる」と認識しておきたい。特徴では、倒立接合部内面に同心円文の当て具痕がみられる。以下の文献に詳細にまとめられている。
池下古墳 1991 (財)愛知県埋蔵文化財センター
矢田野エジリ古墳 1992 石川県小松市教育委員会
- (註5) 川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』六四 - 二 日本考古学会
- (註6) 前項(註1)p11
- (註7) 春成秀爾氏がこの事について簡単かつ明瞭に言及されている。「埴輪の基本的な性格を葬儀終了後にむしろ個人との関係で古墳上に樹立するものとみるならば、こうした古墳以外の出土品にかぎって、葬送とは無関係で、しかも祭式過程で直接的に用いられたとは考えにくい」と述べられている。本報告でも出土状況等から春成氏の意見に準拠する。
春成秀爾 1979 「埴輪」 考古資料の見方<遺物編> 甘粕健編 柏書房 p234~p235
- (註8) 石川県遺跡地図を見ると、指江B遺跡付近の丘陵上に指江古墳が見られるが、それと結び付けるのは、根拠の希薄さゆえにあまりにも短絡であるので避けておきたい。
- (註9) 遺跡といっても、その実、古墳・窯となるが、遺跡内の遺構などに伴うものも若干あり、当報告では集成の対象とした。
- (註10) 三辻利一 1992 「矢田野エジリ古墳出土埴輪・須恵器の蛍光X線分析」
矢田野エジリ古墳 石川県小松市教育委員会 p153~p157
- (註11) 埴輪の内面に同心円文当て具痕跡があるものに、生産地である二ツ梨殿様池窯跡、供給先として、矢田野エジリ古墳、本例があることは同一の倒立技法を有する埴輪製作工人の存在の可能性が想起できる。
- (註12) 望月精司 1988 「第 章 考察 - 所謂箱形粘土槨について - 」
後山無常堂古墳・後山明神3号墳 小松市教育委員会 p73~p93

< 参考文献 >

- 野上丈助 1976 「埴輪生産をめぐる諸問題」 考古学雑誌61 - 3 日本考古学会
- 赤塚次郎 1979 「円筒埴輪製作覚書」 古代学研究90 古代学研究会
- 古川 登 1983 「越前及び加賀における6世紀代の埴輪について」
石川考古学研究会会誌第26号 石川考古学研究会
- 季刊考古学 第20号 - 埴輪をめぐる古墳社会 - 1987 雄山閣出版
- 望月精司 1990 「第 章 考察 - 南加賀古窯群成立期の様相 - 」
二ツ梨東山子用古窯跡・矢田野向山古窯跡 小松市教育委員会
- 中司照世 1992 「北陸」 古墳時代の研究 第9巻 雄山閣出版
- 近藤義郎編 1992 前方後円墳集成 中部編 山川出版社
- 高橋克壽 1994 「埴輪生産の展開」 考古学研究41 - 2 考古学研究会
- 春季特別展図録「はにわ」 1994 石川県立歴史博物館

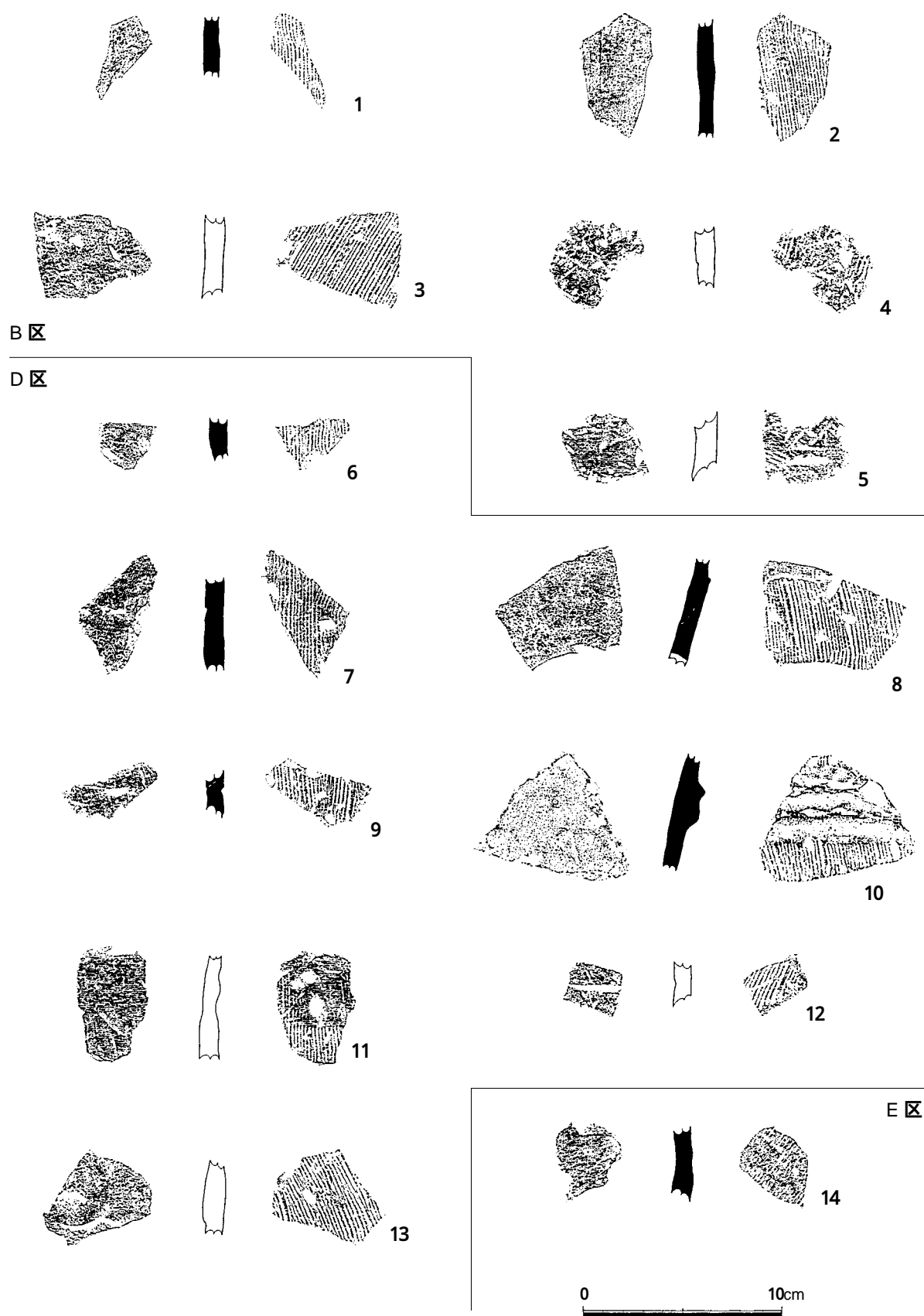


图4 指江B 遗址出土埴輪片（1）

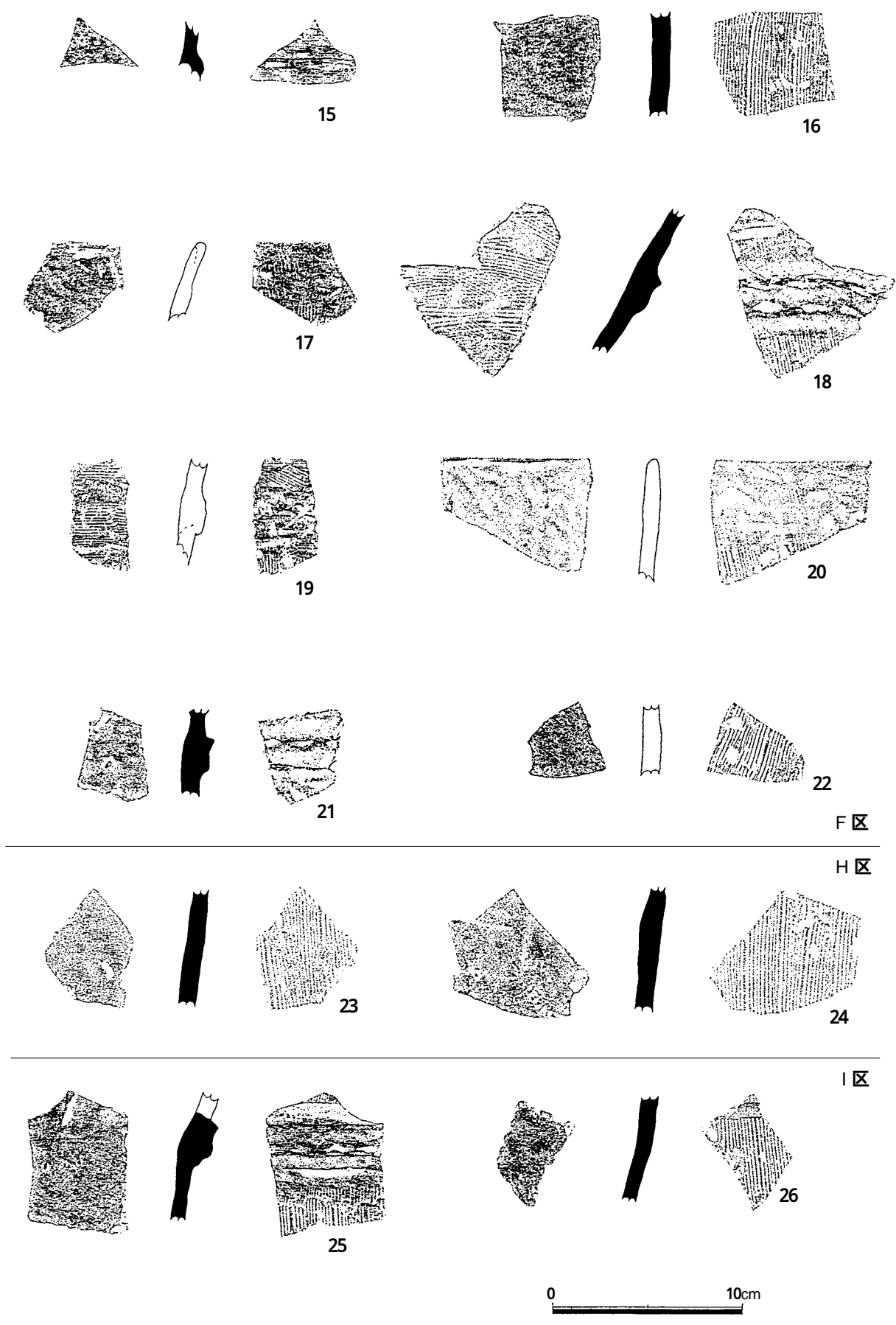


图5 指江B遗址出土埴輪片(2)

報告番号	整理番号	報告書掲載番号	地区	層位	遺構	胎土	調整（内面・外面）	色調（内面・外面・断面）	焼成	突帯の有無（形状・突帯高）	その他特徴
1	八 - 7	459	B区		SX01上層	2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（7本/cm）	（内）灰（N5/0） （外）灰（N5/0） （断）黄褐（2.5Y5/3）	良好 還元炎	なし	
2	八 - 8	458	B区		SX01下層	2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6.5本/cm）	（内）灰（5Y4/1） （外）灰（5Y4/1） （断）灰黄褐（10YR5/2）	良好 還元炎	なし	
3	八 - 17	460	B区	表探		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5.5本/cm）	（内）にぶい橙（10YR6/4） （外）にぶい橙（7.5YR7/4） （断）橙（7.5YR6/6）	良好 酸化炎	なし	内面に粘土つなぎ目あり
4	八 - 19	463	B 地点	表探		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5本/cm）	（内）にぶい橙（7.5YR7/4） （外）にぶい橙（10YR6/4） （断）暗灰黄（2.5Y5/2）	良 酸化炎	なし	表面の磨耗が著しい 面に粘土つなぎ目あり
5	八 - 18	462	B 地点	表探		2mm以下の白色・黒色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5本/cm）	（内）灰黄（2.5Y7/2） （外）赤灰（10R6/1） （断）灰黄（2.5Y7/2）	良 酸化炎	なし	表面の磨耗が著しい。
6	八 - 4	448	D区	包含層		2mm以下の白色・透明色砂粒を含む	（内）ナデ （外）縦ハケ（6.5本/cm）	（内）暗灰黄（2.5Y5/2） （外）灰黄褐（10YR4/2） （断）灰黄褐（10YR5/2）	良好 還元炎	なし	透かし孔の一部が残存 透かし孔を時計回しに穿つ
7	八 - 5	445	D区	包含層		1mm以下の白色・黒色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6本/cm）	（内）灰（7.5Y5/1） （外）灰（5Y5/1） （断）灰白（N7/0）	良好 還元炎	なし	内面に粘土のつなぎ目あり
8	八 - 16	449	D区	表探		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ（一部当て具痕跡あり） （外）縦ハケ（5.5本/cm）	（内）灰褐（7.5YR5/2） （外）オリブ灰（2.5GY5/1） （断）灰白（N7/0）	良好 還元炎	あり （突帯は剥離）	透かし孔の一部が残存 透かし孔を反時計回しで穿つ 内面に粘土つなぎ目あり
9	八 - 20	464	D 地点	表探		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5.5本/cm）	（内）暗灰黄（2.5Y5/2） （外）灰（7.5Y5/1） （断）灰（N6/0）	良好 還元炎	なし	内面に粘土つなぎ目あり
10	八 - 27	443	D区	包含層		3mm以下の白色・黒色砂粒含む	（内）ナデ （外）縦ハケ（5.5本/cm）横ナデ	（内）暗灰黄（2.5Y5/2） （外）暗灰黄（2.5Y5/2） （断）暗灰黄（2.5Y5/2）	良好 還元炎	あり 断面形状は低い（0.6cm）台形 端面は凹状になる	
11	八 - 1	444	D区	包含層		2mm以下の白色砂粒含む	（内）横ナデ （外）縦ハケ（5.5本/cm） 一部ハケのちに横ナデあり	（内）浅黄橙（10YR8/4） （外）浅黄橙（7.5YR8/4） （断）灰（10Y6/1）	良好 酸化炎	なし	外面に一部指頭圧痕あり
12	八 - 6	447	D区	包含層		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6本/cm）	（内）にぶい橙（7.5YR7/4） （外）褐灰（7.5YR6/1） （断）緑灰（10GY5/1）	良好 酸化炎	なし	内面に粘土のつなぎ目あり
13	八 - 2	446	D区	包含層		3mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6本/cm）	（内）にぶい褐（7.5YR6/3） （外）にぶい橙（7.5YR6/4） （断）灰（N6/0）	良好 酸化炎	なし	内面に粘土のつなぎ目あり

指江 B 遺跡出土土埴輪片観察表（1）

報告番号	整理番号	報告書掲載番号	地区	層位	遺構	胎土	調整（内面・外面）	色調（内面・外面・断面）	焼成	突帯の有無（形状・突帯高）	その他特徴
14	八 - 12	461	E 区		SX01下層	2mm以下の白色・黒色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5.5本/cm）	（内）灰（5Y5/1） （外）灰（5Y5/1） （断）灰白（7.5Y7/1）	良好 還元炎	なし	透かし孔の一部が残存
15	八 - 9	454	F 区		落ち込み	2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）縦ハケ（？本/cm） 横ナデ	（内）灰（5Y5/1） （外）灰（5Y5/1） （断）灰白（7.5Y7/1）	良好 還元炎	あり 断面形状は低い（0.5cm） 台形	
16	八 - 10	455	F 区		落ち込み下層	2mm以下の白色・茶色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（4本/cm）	（内）にぶい襷（7.5YR6/3） （外）灰（5Y5/1） （断）灰（5Y6/1）	良好 還元炎	なし	内面に褐灰（10YR 5 / 1） のしみあり
17	八 - 14	450	F 区	黒褐色層		3mm以下の白色砂粒含む	（内）横ナデ （外）縦ハケ（？本/cm）の ち横ナデ	（内）にぶい襷（7.5YR7/4） （外）褐灰（7.5YR7/4） （断）明緑灰（10GY7/1）	良好 酸化炎	なし	円筒埴輪の口縁部片 口縁端部は面取り 内面に粘土のつなぎ目あり
18	八 - 26	452	F 区	暗褐色層		2mm以下の白色砂粒含む	（内）横ハケ（6.5本/cm） （外）縦ハケ（6.5本/cm） 横ナデ	（内）灰（N5/0） （外）灰（N5/0） （断）灰白（7.5Y7/1）	良好 還元炎	あり 断面形状は低い（0.6cm） 台形 端面は凹状・指頭圧痕あり	朝顔形埴輪片 内面に粘土のつなぎ目・一部 指頭圧痕あり
19	八 - 13	457	F 区	暗褐色層		2mm以下の白色砂粒含む	（内）横ハケ（6.5本/cm） ナデ （外）ハケ（8本/cm） 横ナデ	（内）灰黄（2.5Y6/2） （外）にぶい襷（5YR7/4） （断）灰（N6/0）	良好 酸化炎	あり 断面形状は低い（0.4cm） 台形	
20	八 - 25	451	F 区	灰色砂層		3mm以下の白色・赤褐色砂粒含む	（内）ナデ （外）縦ハケ（6本/cm）の ち横ナデ	（内）にぶい襷（5YR7/4） （外）にぶい襷（7.5YR7/4） （断）にぶい襷（5YR7/4）	良好 酸化炎	なし	円筒埴輪の口縁部片 口縁部は内面凹状である 外面に粘土のつなぎ目あり
21	八 - 28	453	F 区	灰色粘土層		3mm以下の白色砂粒含む	（内）横ナデ （外）縦ハケ（？本/cm） 横ナデ	（内）灰襷（5YR5/2） （外）灰黄襷（10YR5/2） （断）灰黄襷（10YR5/2）	良好 還元炎	あり 断面形状は低い（0.6cm） 台形 端面は凹状になる	透かし孔の一部が残存
22	八 - 15	456	F 区	灰色粘土層		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（5.5本/cm）	（内）にぶい襷（7.5YR6/4） （外）にぶい襷（5YR6/4） （断）灰白（N7/0）	良好 酸化炎	なし	
23	八 - 21	278	H 区		SK48	2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6本/cm）	（内）にぶい赤襷（5YR5/3） （外）灰襷（5YR4/2） （断）灰黄襷（10YR5/2）	良好 還元炎	なし	
24	八 - 22	279	H 区		河道	2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ（一部当て具痕跡あり） （外）ハケ（5.5本/cm）	（内）褐灰（10YR5/1） （外）灰5Y5/1 （断）灰5Y5/1	良好 還元炎	なし	透かし孔の一部が残存 透かし孔を反時計回りで穿つ
25	八 - 23	295	I 区	側溝掘り		2mm以下の白色・黒色・赤褐色砂粒含む	（内）ナデ （外）縦ハケ（6本/cm） 横ナデ	（内）灰（5Y5/1） （外）灰（5Y5/1） （断）褐灰（10YR6/1）	良好 還元炎	あり 断面形状は低い（0.5cm） 台形 端面は凹状になる	
26	八 - 24	294	I 区	側溝掘り		2mm以下の白色砂粒含む	（内）ナデ （外）ハケ（6本/cm） 一部ナデ	（内）灰襷（5YR5/2） （外）灰（10Y5/1） （断）青灰（10BG6/1）	良好 還元炎	なし	

指江 B 遺跡出土埴輪片観察表（2）

埴輪出土遺跡一覧

番号	古墳名	所属古墳群	所在地	埴形	円筒埴輪の有無	その他の種類	時期	参考文献
1	敷地A群1号墳	敷地A古墳群	加賀市敷地	円墳?			中期後半～後期前半	1
2	敷地A群2号墳	敷地A古墳群	加賀市敷地	円墳?(約20m)			後期前半	1
3	敷地A群3号墳	敷地A古墳群	加賀市敷地	円墳?			後期前半	1
4	敷地A群4号墳	敷地A古墳群	加賀市敷地	円墳?			後期前半	1
5	吸坂丸山2号墳	吸坂古墳群	加賀市吸坂町	方墳(約15m)	×	鶏形土製品	前期	2
6	吸坂丸山5号墳	吸坂古墳群	加賀市吸坂町	円墳(約16m)		人物埴輪	中期後半	2
7	富塚丸山古墳		加賀市富塚町	円墳?(帆立貝式前方後円墳か?)			中期～後期	1
8	狐山古墳		加賀市二子塚町	前方後円墳(約56m)	須恵質埴輪	形象埴輪(盾?)	中期後半	3
9	二子塚2号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	円墳(約18m)			中期後半～後期前半	4
10	二子塚3号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	不明			中期後半～後期前半	4
11	二子塚4号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	不明			中期後半～後期前半	4
12	二子塚5号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	不明			中期後半～後期前半	4
13	二子塚6号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	不明			中期後半～後期前半	4
14	二子塚7号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町	前方後円墳(約30m)	須恵質埴輪(顔料塗布)	朝顔形・形象埴輪	中期後半	4
15	御幸塚古墳		小松市今江町	前方後円墳(約30m)	須恵質埴輪		後期前半	5
16	土百古墳		小松市今江町	円墳(約10m)	須恵質埴輪		中期～後期	1
17	借屋4号墳	矢田借屋古墳群	小松市月津町	円墳(約13m)	須恵質埴輪	形象埴輪?	後期前半	6
18	借屋7号墳	矢田借屋古墳群	小松市月津町	前方後円墳(25m以上)			中期後半	6
19	借屋9号墳	矢田借屋古墳群	小松市月津町	円墳(約13m)	須恵質埴輪・土師質埴輪		後期前半	7
20	借屋12号墳	矢田借屋古墳群	小松市月津町	不明	須恵質埴輪		後期前半	7
21	矢田野エジリ古墳		小松市矢田野町	前方後円墳(約30m)	須恵質埴輪	朝顔形・人物形・馬形埴輪	後期前半	8
22	長坂二子塚古墳		金沢市長坂町	前方後円墳(68m以上)		朝顔形?・壺形埴輪	前期後半	9
23	指江B遺跡		河北郡宇ノ気町	河川・土坑・表採など	須恵質埴輪	朝顔形埴輪	後期前半	10
24	柴垣観音山古墳		羽咋郡柴垣町	円墳(約50m)	(野焼き)	朝顔形・器財埴輪の可能性あり	中期	12
25	滝大塚古墳	滝古墳群	羽咋郡滝町・一ノ宮町	円墳(帆立貝式前方後円墳か?)(約90m)			中期～後期	12
26	滝1号墳	滝古墳群	羽咋郡一ノ宮町	円墳(約8m)			中期～後期	12
27	滝2号墳	滝古墳群	羽咋郡一ノ宮町	円墳(約18m)			後期前半 ^f	12
28	滝5号墳	滝古墳群	羽咋郡一ノ宮町	円墳(約50m)			中期～後期	12
29	水白鍋山古墳		鹿島郡鹿島町	円墳(約50m)			前期後半	11
30	矢田丸山古墳	矢田古墳群中瀬支群	七尾市矢田町	円墳(40m以上)	(野焼きか?)		中期前半	13

埴輪出土地一覧(1)

埴輪出土の窯跡一覧

番号	窯跡名	所属窯跡群	所在地	特徴	円筒埴輪の有無	備考	時期	参考文献
31	ニッ梨殿様池 1号窯	小松丘陵窯跡群	小松市ニッ梨	埴窯兼用窯		内面に同心円文のタタキあり	中期末～後期前半	14
32	ニッ梨殿様池 2号窯	小松丘陵窯跡群	小松市ニッ梨	埴窯兼用窯		内面に同心円文のタタキあり	中期末～後期前半	14
33	ニッ梨殿様池 3号窯	小松丘陵窯跡群	小松市ニッ梨	埴窯兼用窯（存在の可能性）		内面に同心円文のタタキあり	中期末～後期前半	14

二次的ではあるが、埴輪が出土した遺跡一覧表である。今回文献をあたることが適わなかったが、列記した。なお、後に文献をあたれたものは追記した。

番号	古墳名	所属古墳群	所在地	墳形	円筒埴輪の有無	その他の種類	時期	参考文献
34	新黒瀬遺跡		加賀市黒瀬町					
35	下福田古墳群	下福田古墳群	加賀市下福田町					
36	二子塚 1号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町					
37	二子塚 10号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町		（円筒 期）	朝顔形埴輪	後期	
38	二子塚東田 1号墳	二子塚古墳群	加賀市二子塚町					
39	借屋 8号墳	矢田借屋古墳群	小松市月津町		（円筒 期）		後期	
40	借屋遺跡		小松市月津町				中期～後期	
41	滝 6号墳	滝古墳群	羽咋郡一宮町					
42	二所宮宮山 1号墳		羽咋郡志賀町					
43	二所宮宮山 3号墳		羽咋郡志賀町					
44	冬野大塚古墳		羽咋郡押水町					
45	森本大塚古墳		羽咋郡押水町	円墳（約40m）		朝顔形・壺形埴輪	中期後半	15
46	大海川河口		羽咋郡押水町			人物埴輪	後期	
47	小竹ガラボ山古墳		鹿島郡鹿島町	前方後円墳（約50m）		家形埴輪	中期前半	

参考文献

- 1) 江沼古墳群分布調査報告 1978 石川考古学研究会
- 2) 吸坂丸山古墳群 1990 加賀市教育委員会
- 3) 史跡 狐山古墳周溝調査概要報告書 1974 石川県加賀市教育委員会
- 4) 加賀市二子塚遺跡群調査概要 1974 石川県教育委員会
- 5) 小松市文化財紀要 1969 小松市教育委員会
- 6) 小松市史 4 1965 小松市教育委員会
- 7) 矢田借屋古墳群 1999 小松市教育委員会
- 8) 矢田野エジリ古墳 1992 石川県小松市教育委員会
- 9) 河村義一 1969 「金沢市長坂二子塚古墳について」 石川考古学研究会会誌第12号 石川考古学研究会
- 10) 指江遺跡・指江 B 遺跡 2002 石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター
- 11) 石川県鹿島町史 資料編 1966 石川県鹿島町役場
- 12) 羽咋市史 原始・古代編 1973 羽咋市役所
- 13) 新修七尾市史 1 考古編 2002 七尾市役所
- 14) 小松高校地歴部・近間 強 1985 「小松丘陵窯跡群分布調査報告」 石川考古学研究会会誌第31号 石川考古学研究会
- 15) 橋本澄夫 1966 「石川県押水町森本大塚古墳の予備的調査」 石川考古学研究会会誌第10号 石川考古学研究会

埴輪出土地一覧（2）